

里地里山保全再生の目標と取り組み内容

＜里地里山保全再生の目標＞

目標① 生物多様性保全

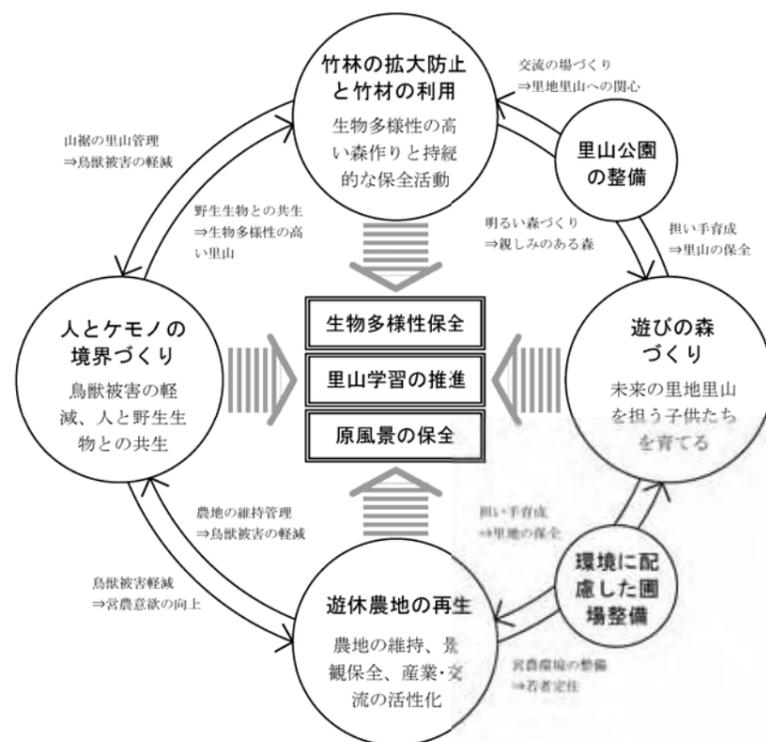
身近な二次的自然環境を適切に維持管理することにより、多様な生物と共生する地域づくりを目指す。

目標② 里山学習の推進

森林の維持管理活動や自然の中での遊び、学習など各種活動を通じて、幅広い市民が里地里山の自然の魅力とともに里地里山に関する知恵や経験、芸術文化など多様な里地里山文化に触れられる場を形成する。

目標③ 原風景の保全

里地里山とともに暮らす人々の知恵と歴史が凝縮した里地里山の原風景を保全し、地域の誇りとして次世代に継承する。



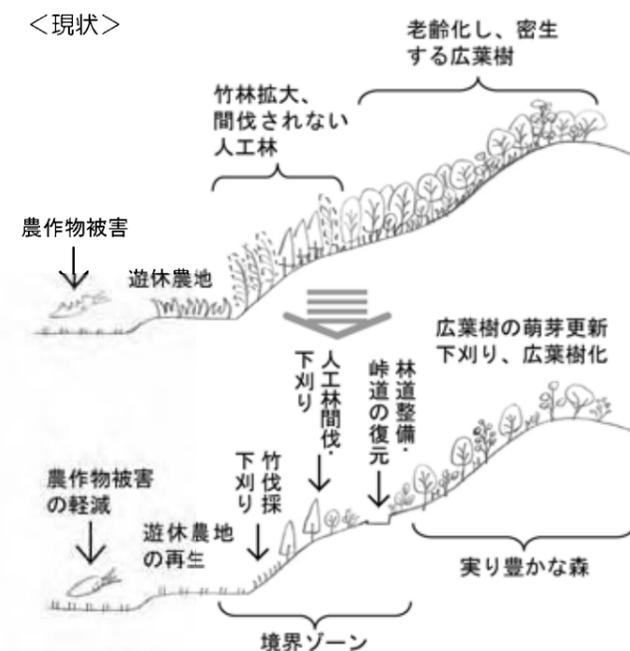
人とケモノの境界づくり

農地周辺の山裾の下刈りや間伐、里山の中の道づくりなどにより人とケモノの境界領域をつくり、鳥獣被害の軽減、野生動物との共生を目指します。



滋賀県木ノ本町の事例
山際の3haを放牧地にし、山と農地の間にゾーニング域を設け、野生獣が農地に侵入しにくくした結果、作物被害が軽減され、特産のジネンジョ栽培が復活した。

＜現状＞



＜整備後＞

遊休農地の再生

都市住民の力も借りながら、そばづくりや景観作物づくりなど遊休農地の再生に集落単位で取り組み、地域の活性化を目指します。

○遊休農地を活用した農業体験

遊休農地を都市住民の農作業体験の場として活用します。

- ・ソバ塾
- ・米づくり塾
- ・市民農園



遊休農地を活用し、農作業からソバ打ちまでが体験できる『ソバ塾』

○環境に配慮した圃場整備

環境に配慮した圃場整備により、生産性の向上とともに、ホタル等の水辺の生物の生息環境保全を図ります。また、そば塾や市民農園などこれまで行われてきた活動と連携した農地活用を進めます。



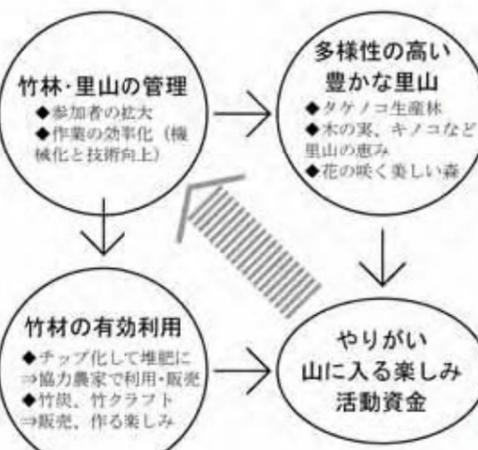
平成17年度からは『米づくり塾』もスタート。
写真出典：http://www.satoyama.gr.jp/

○インターネットによる農作業体験 ファーマーズびれっじ

インターネット上で農産物の成長過程のバーチャル体験を販売することで、これまで販売が難しかった少量の農産物や放棄果樹なども商品化を図ります。

竹林の拡大防止と竹材利用

拡大する竹林を管理して多様性の高い豊かな里山づくりを目指します。同時に、竹材の有効活用を通じて持続的な活動を目指します。



ボランティアによる竹伐採。最近では大学グループの参加も。



常設炭焼き釜が完成。



竹チップ化実験に向けて準備中。(写真は小型チッパーでの試験)

遊びの森づくり

子供たちに里山で遊ぶ楽しさを伝え、次代の里地里山を担う人材を育てます。同時に、子供を通じて大人たちの自然に対する関心を高めていきます。



学校裏山でのシイタケ栽培。



学校裏山でのデッキ作りが始まった。



学校裏山の散策道作りのための現地点検。昨年台風被害による倒木も多い。



学校裏山の散策道作りのため、ルート上にテープを張る。

綾部地区の魅力

美しい里山の風景



綾部地区のさらなる魅力の向上

美しい里山環境の維持と地域の活性化

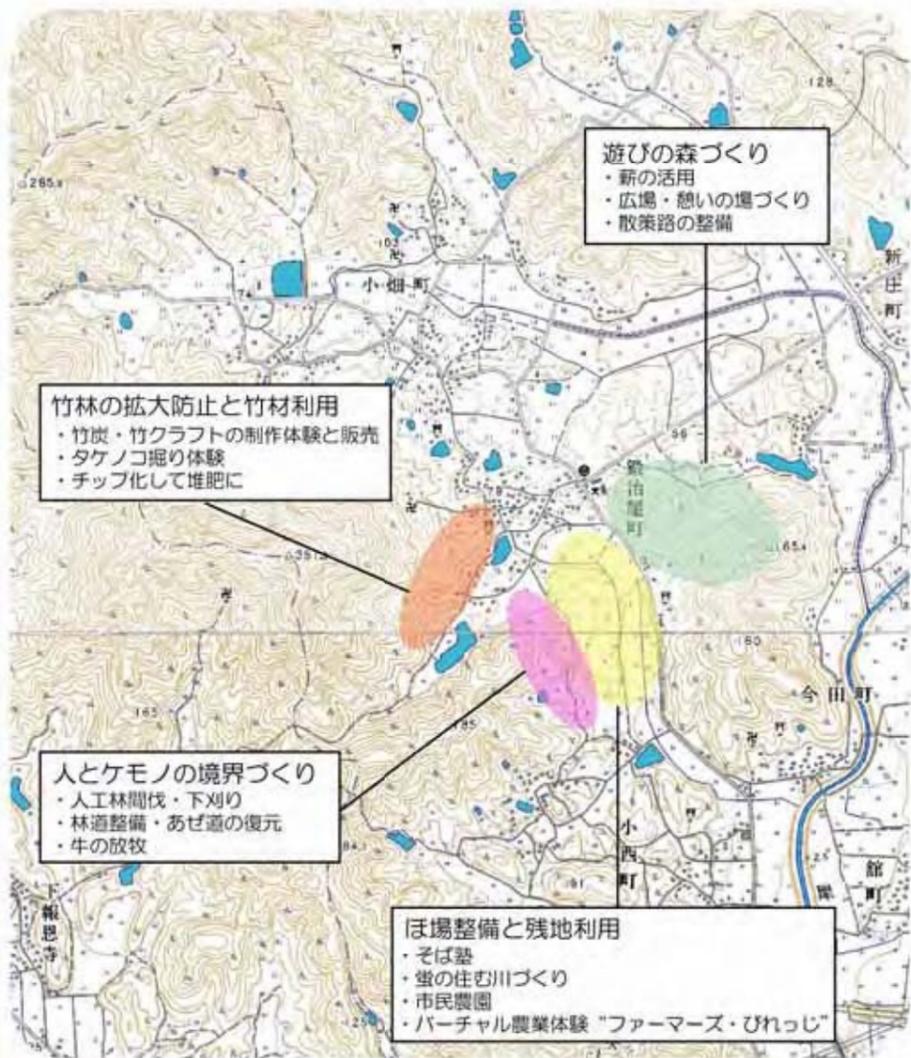
地域の課題

生まれ育った場所だから残したい
美しい里山環境の維持

都市住民の農林業体験への参加

里山の風景を満喫したい！
自分で畑を耕したい！
美味しい野菜を食へます

都市住民との交流と協働による活動



都市住民が多様なかたちで農林業に参加・体験できるしかけをつくることで、綾部への来訪者が増えます。

特産品の開発やニュービジネスの展開が、活動資金の確保とさらなる活動の発展へとつながります。

森の中での遊びを通して自然に対する関心が高まり、次世代の里地里山を担う人材が育れます。

綾部の暮らしに惹かれた都会からの新居住者を迎え、地域が活性化します。

牛の放牧や林道整備でイノシシ等が田畑に近づきにくくなり、獣害が軽減されます。

実り豊かな森をつくれれば、野生生物が餌を求めて里山に降りて来ることを防げます。

竹材の有効利用や都市住民の管理参加により、竹林の拡大を防止し、多様性の高い豊かな里山をつくれます。

綾部の豊かな里山環境が、地域住民と都市住民の協働によって守られ、また地域の活性化につながります。

